

1 研究論文

2

jass.sty パッケージ

3

— 『社会言語科学』 L^AT_EX スタイルファイル —

4

和文著者名 1 (所属 1) ・和文著者名 2 (所属 2)

5

この文書では『社会言語科学』 L^AT_EX スタイルファイルの使用法について説明します。この文書自体が L^AT_EX で投稿原稿を作成する際のサンプルになっています。この文書を投稿用のテンプレートとしてお使いください。なお、原稿執筆に関する一般的諸注意については、学会ホームページの「執筆要項」をご参照ください。

9

キーワード：『社会言語科学』, L^AT_EX, テンプレート, スタイルファイル, 投稿

10

jass.sty Package:

11

L^AT_EX Style File for the *Japanese Journal of Language in Society*

12

Author 1 (Affiliation 1), Author 2 (Affiliation 2)

13

This document describes the usage of the L^AT_EX style file for the *Japanese Journal of Language in Society*. The document, by itself, serves as an example of a L^AT_EX manuscript to be submitted to the journal. You may use this document as a template when preparing your manuscript in L^AT_EX. Please refer to the ‘Style Guide’ in the society web page for general submission and style guidelines.

17

Key words: *Japanese Journal of Language in Society*, L^AT_EX, template, style file, submission

18 1. はじめに

19 この文書では『社会言語科学』 L^AT_EX スタイル
20 ファイル jass.sty の使用法について説明します。
21 本パッケージを用いると、執筆要項に定められた
22 レイアウト・フォントサイズ・行間・字下げなどが
23 自動的に設定されます。これらに関わるパラメタ
24 (`\textheight`, `\baselineskip` など) の値を変更
25 したり, (`\hspace{...}`, `\vspace{...}` を使って)
26 手動で空白を空けたりすることは避けてください。
27 本スタイルファイルは jsarticle クラスファイ
28 ルとともに用います (pL^AT_EX 標準の jarticle で
29 はありません)。文書の冒頭に以下のように記述し
30 てください。デフォルトでは, (本文書のように) 行
31 番号が振られます¹⁾。

```
32 \documentclass{jsarticle}
```

```
33 \usepackage{jass}
```

34 本パッケージは, Windows 上の TeX Live や Mac
35 上の MacTeX など標準的な T_EX ディストリビュー
36 ションで利用可能です²⁾。

37 2. タイトル部

38 2.1 投稿原稿の種類

39 投稿原稿の種類を `\papertype{...}` に指定しま
40 す。以下のいずれかから選択します。

```
41 \papertype{研究論文}
```

```
42 \papertype{展望論文}
```

```
43 \papertype{資料}
```

1 `\papertype{シヨートノート}`

2 2.2 和文 / 英語タイトル・サブタイトル
3 以下のコマンドで指定します。サブタイトルは省
4 略可能です。

5 `\jtitle{和文タイトル}`
6 `\jsubtitle{和文サブタイトル}`
7 `\etitle{Title in English}`
8 `\esubtitle{Subtitle in English}`

9 2.3 和文 / 英語著者情報
10 論文投稿時には著者情報を記載せず、以下のコマ
11 ンドをそのまま記述します。

12 `\jauthor{和文著者名 1\and 和文著者名 2}`
13 `\jaffiliation{所属 1\and 所属 2}`
14 `\eauthor{Author 1\and Author 2}`
15 `\eaffiliation{Affiliation 1\and`
16 `Affiliation 2}`

17 これらのコマンドにおける`\and`の個数は必ず揃
18 えてください。

19 2.4 和文 / 英語要約・キーワード
20 以下のコマンドで指定します。キーワードは5語
21 程度です。

22 `\jabstract{和文要旨}`
23 `\jkeyword{キーワード 1, キーワード 2,`
24 `キーワード 3, キーワード 4, キーワード 5}`
25 `\eabstract{Abstract in English}`
26 `\ekeyword{key word 1, key word 2,`
27 `key word 3, key word 4, key word 5}`

28 2.5 タイトル部の生成
29 以上の指定を行なったのち、以下のコマンドを記
30 述します。

31 `\maketitle`

32 3. 本文

33 3.1 フォントサイズ
34 通常の`LATEX`文書よりも全体として小さめのフォ
35 ントが用いられています³⁾。`\tiny`~`\HUGE`のフォ
36 ントサイズコマンドに加えて、大見出しのサイズに
37 相当する`\middlesize`というコマンドが追加され
38 ています。

39 3.2 レイアウト
40 本文は2段組、1行あたり23字、1段あたり40
41 行で組まれます。上下の余白は各45mm、左右の余
42 白は各24mmに設定されています。

43 3.3 見出し
44 章や節の見出しを生成するには、`\section{...}`
45 (大見出し)、`\subsection{...}`(中見出し)、
46 `\subsubsection{...}`(小見出し)を用います。

47 3.4 箇条書き
48 3.4.1 番号なし
49 番号なしの箇条書きは`itemize`環境を用います。
50 • 番号なしの箇条書き
51 • 字下げは2文字分。先頭・末尾行の前後や項目
52 間に空きはありません。

53 3.4.2 番号付き
54 番号付きの箇条書きは`enumerate`環境を用い
55 ます。
56 1. 番号付きの箇条書き
57 2. 字下げは2文字分。先頭・末尾行の前後や項目
58 間に空きはありません。

59 3.4.3 項目名付き
60 項目名付きの箇条書きは`description`環境を用
61 います。
62 先頭 項目名付きの箇条書き
63 長い項目名 字下げは4文字分。項目名が長い場合
64 は字下げ分よりはみ出します。先頭・末尾
65 行の前後や項目間に空きはありません。

66 3.5 引用ほか
67 3.5.1 引用
68 文章の引用には`quotation`環境を用います。
69 文章の引用。先頭行は3字下げ、2行目

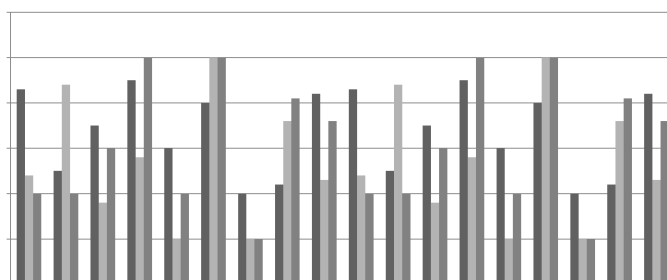


図1 図タイトル. 2 段抜きの図のタイトルは紙面の幅一杯を使って出力されます. 複数行に渡る場合は図番号の位置に揃えて字下げされます.

1 以降は 2 字下げです. すべての行の右側に
 2 も 2 字分の空きが入ります.
 3 2 段落目の先頭行も 3 字下げです. 先
 4 頭・末尾行の前後は 1 行空きです.

5 3.5.2 入力通り出力

6 L^AT_EX のコマンド列も含め, 文章を入力通り出力
 7 するには `verbatim` 環境を用います.

8 入力通り出力.

9 先頭・末尾行の前後は 1 行空きです.
 10 本文内では `\verb` コマンドを用います.

11 3.5.3 中央・左・右寄せ配置

12 文章を中央・左・右寄せに配置するには, それぞれ
 13 `center`, `flushleft`, `flushright` 環境を用います.

14 たとえば中央寄せ.

15 先頭・末尾行の前後は 1 行空きです.

16 3.6 数式

17 数式には `equation` 環境を用います.

$$18 \quad y = x^2 \quad (1)$$

19 複数の数式を並べる場合は, `eqnarray` 環境を用
 20 います.

$$21 \quad z = y + 1 \quad (2)$$

$$22 \quad y = x^2 \quad (3)$$

23 いくつか注意すべき点があります.

- 24 1. 文書中で `equation` 環境や `eqnarray` 環境の直
 25 前の行との間に空行を開けないでください. 空
 26 行を開けると, 余分な空きが生じます (通常で
 27 あれば, 数式の前後は半行空きです).
- 28 2. 数式番号は行の右端につきます. 左につけたい
 29 場合は, `jsarticle` クラスのオプションに
 30 `leqno` を指定してください.

31 `\documentclass[leqno]{jsarticle}`

- 32 3. 数式は中央寄せになります. 左寄せにしたい場
 33 合は, `jsarticle` クラスのオプションに `fleqn`
 34 を指定してください. 2 字下げになります.

35 `\documentclass[leqno, fleqn]{jsarticle}`

36 4. 図表

37 段内の図表は `figure` および `table` 環境を用い
 38 ます. 2 段抜きの図表は `figure*` および `table*` 環
 39 境を用います.

40 図表はすべて中央寄せに配置され, また高さは行
 41 送りの整数倍に調整されます. 図 1 は 2 段抜きの図
 42 の例, 図 2 は段内の図の例です. 同様に, 表 1 は 2
 43 段抜きの表の例, 表 2 は段内の表の例です.

44 4.1 表に関する諸注意

- 45 • 表は `\caption` コマンドと `tabular` 環境, そし
 46 て必要があれば `tablenotes` 環境の 3 つの部

表 1 表のタイトルは上部に出力されます。

項目	説明
タイトル	<code>\caption</code> コマンドで出力します
フォントサイズ	デフォルトでは small サイズになります
行間	<code>\renewcommand{\arraystretch}{倍率}</code> で変更できます
脚注	表内の脚注を <code>\tnote</code> コマンドと <code>tablenotes</code> 環境で出力できます*

* `\tnote{*}` のように引数に脚注マークを指定します。この脚注は `tablenotes` 環境で出力されています。

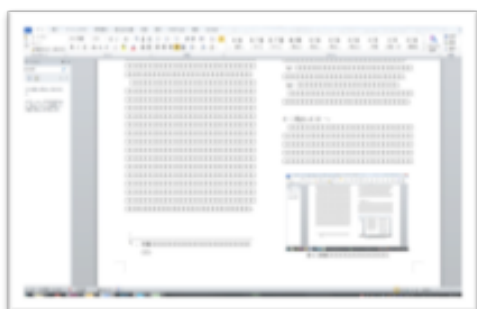


図 2 1 行におさまる場合は中央寄せになります。

1 分から構成されます。

- 2 ● 表タイトルが長い場合、表の幅で折り返されま
- 3 す。ただし、表の幅が狭い場合は、最低でも段
- 4 の幅の半分までは改行されません。この最低
- 5 幅は `\renewcommand\TPTminimum{幅}` で変更
- 6 できます。
- 7 ● `tabular` 環境で出力される表の行間は標準で
- 8 是 `small` サイズの行送りです。この値を基準
- 9 として `\renewcommand\arraystretch{倍率}`
- 10 で変更できます。
- 11 ● 表の列間は標準では 1.4mm の 2 倍です (セル
- 12 内の左右余白がそれぞれ 1.4mm)。この値は、
- 13 `\setlength\tabcolsep{幅}` で変更できます。
- 14 ● `tablenotes` 環境は、表 1 にあるように、表中
- 15 の脚注を出力するために用います。

16 4.2 図表の配置について

17 \LaTeX の図表は浮揚物 (floats) とよばれ、本文と
 18 は別に組版されます。科学論文では通常、図表は
 19 ページや段の上部か下部に配置します。 \LaTeX で
 20 狙った位置に図表を配置するのはさほど難しくあり

21 ません。以下にいくつかの Tips を挙げます。

- 22 ● `figure` 環境や `table` 環境の位置指定オプショ
- 23 ンを使用せず、 \LaTeX に任せます。段の下部に
- 24 配置したいときのみ、`[b]` オプションを付けま
- 25 す。強制的にその場所に出力させる `here.sty`
- 26 のようなパッケージは使用しないでください。
- 27 ● 2 段抜きの図表をあるページの上部に配置する
- 28 には、そのページの最初の段落が始まる箇所
- 29 (前のページ) を \LaTeX 文書中で探し、その直
- 30 前に図表を記載します。たとえば、3 ページの
- 31 図 1 は、そのページの最初の段落である引用部
- 32 が始まる位置 (2 ページの 69 行目) の直前に記
- 33 載されています。
- 34 ● 同様に、段内の図表をある段の上部に配置する
- 35 には、その段の最初の段落が始まる箇所 (前の
- 36 ページや段) を \LaTeX 文書中で探し、その直前
- 37 に図表を記載します。たとえば、4 ページ左段
- 38 の図 2 は、その段の最初の段落である箇条書き
- 39 の項目が始まる位置 (3 ページの 45 行目) の直
- 40 前に記載されています。
- 41 ● 段の下部に配置するには、その段の最初の段落
- 42 が終わる箇所の直後に図表を記載します。たと

表 2 表のタイトルは表の幅で折り返されま
 す。複数行に渡る場合は表番号の位置に
 揃えて字下げされます。

1 行目・1 列目	2 列目	...	m 列目
2 行目			
...			
n 行目			n 行目・ m 列目

1 えば,4 ページ右段の表 2 は,その段の最初の段
2 落である箇条書きの項目が終わる位置(4 ペー
3 ジの 26 行目)の直後に記載されています.

4 • 図表の大きさによっては,以上の方法でうまく
5 いかないこともあります.その場合は,段落単
6 位で図表の記載位置を動かすのではなく,文や
7 文字の単位で動かしてみてください.その際,
8 図表を挟んで前後の文章が隙間なくつながるよ
9 う,L^AT_EX 文書中で空行を入れないよう気をつ
10 けてください.

11 5. 付記・謝辞

12 本文の後に,付記や謝辞を置くことができます.
13 付記は`\epilegomenon` コマンドに続けて,謝辞
14 は`\acknowledgement` コマンドに続けて書きます.

15 6. 注

16 注は脚注ではなく,末尾注とします.注を付けた
17 い箇所に通常通り`\footnote` コマンドを使って注
18 を記述し,末尾注を出力すべき位置(謝辞の後,参
19 考文献の前)に以下のコマンドを記述します.

20 `\theendnotes`

21 7. 参考文献

22 7.1 参考文献リスト

23 参考文献リストは Bib_TE_X を使って作成します.
24 Bib_TE_X のスタイルとして `jass.bst` を使用します.
25 参考文献を記述したファイルを `sample.bib` とする
26 と,以下のように記述することで執筆要項に従った
27 参考文献リストが出力されます.

28 `\bibliographystyle{jass}`

29 `\bibliography{sample}`

30 7.2 参考文献の引用

31 本文中の参考文献の引用には,以下の 2 通りの形
32 式があります.

33 1. 文の構成要素として引用文献を用いる場合

34 ソース `\citet{安田 77}`によれば~.
35 `\citet{Spitzberg84}`は,~.
36 `\citet[][33--42]{芳賀 63}`によれ
37 ば~.

38 出力 安田・海野(1977)によれば~.
39 Spitzberg & Cupach (1984)は,~.
40 芳賀(1963:33-42)によれば~.

41 2. 文末に引用文献を付ける場合

42 ソース ~である`\citep{安田 77}`.
43 ~という`\citep{Spitzberg84}`.
44 ~である`\citep{柴田 78, 竹内 82}`.
45 ~である`\citep[][33--42]{芳賀`
46 `63}`.

47 出力 ~である(安田・海野,1977).
48 ~という(Spitzberg & Cupach,1984).
49 ~である(柴田,1978;竹内,1982).
50 ~である(芳賀,1963:33-42).

51 著者が 3 名以上の場合は,以下のように筆頭著者
52 以外は省略されます.

53 Sacks et al. (1974)は,~.

54 すべての著者を列挙したい場合は,`\citet`
55 や`\citep` コマンドの代わりに,`\citet*`や`\citep*`
56 コマンドを用います.

57 Sacks, Schegloff & Jefferson (1974)は,~.

58 8. 後書き

59 後書きとして受付・修正版受付・掲載決定の日付
60 を書きます.論文投稿時には以下のコマンドをその
61 まま記述します.

62 `\received{201X年X月X日}`

63 `\revised{201X年X月X日}`

64 `\accepted{201X年X月X日}`

65 以上の指定を行ったのち,L^AT_EX 文書の最後
66 (`\end{document}`の直前)に以下のコマンドを記
67 述します.

68 `\makeendmatter`

1 付 記

2 付記を書きます .

3 謝 辞

4 謝辞を書きます .

5 注

6 1) (印刷版を作成するなどの目的で)行番号を抑制する
7 には ,

```
8 \usepackage[nolineno]{jass}
```

9 のようにオプションを指定してください .

10 2) 以下の標準パッケージが読み込まれます .

- 11 lineno 行番号の生成
- 12 txfont Times 系フォントの使用
- 13 caption 図表キャプションの書式設定
- 14 threeparttable 表の脚注を含む整形
- 15 endnotes 末尾注の生成
- 16 natbib 科学論文で標準的な文献引用
- 17 url URL の整形
- 18 flushend 最終ページの左右段揃え

19 3) 各フォントサイズコマンドと Word におけるフォント
20 サイズとの対応は概ね以下のとおり .

- 21 \tiny 4pt
- 22 \scriptsize 4.5pt
- 23 \footnotesize 7pt
- 24 \small 8pt
- 25 \normalsize 9pt
- 26 \middlesize 9.5pt
- 27 \large 10.5pt
- 28 \Large 12pt
- 29 \LARGE 14pt
- 30 \huge 16pt
- 31 \Huge 20pt
- 32 \HUGE 24pt

33 【参考文献】

34 Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn, Laurence R.,
35 & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*,
36 pp. 29–52. Malden, MA: Blackwell.

37 Dorian, Nancy C. (Ed.) (1989). *Investigating obsolescence*.
38 Cambridge: Cambridge University Press.

39 芳賀純 (1963). 日本人学生の学習した英語名詞の意味構造

40 の比較研究 教育心理学研究, 11, 33–42.

41 橋元良明 (編) (2005). 講座社会言語科学 2 メディア ひ
42 つじ書房

43 Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language
44 and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell
45 (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp. 35–71. New
46 York: Holt, Rinehart & Winston.

47 社会言語科学会 (2004). 原稿募集のお知らせ 社会言語科
48 学会 2004 年 11 月 8 日 <<http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaisi.html>> (2007 年 6 月 20 日)

49 Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A*
50 *study of spontaneous gestures and Japanese mimetic-*
51 *ics*. Doctoral dissertation, Department of Psychology
52 and Department of Linguistics, University of Chicago.
53 Chicago, Illinois.

54 Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning:*
55 *Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cam-
56 bridge University Press. (佐伯胖訳 (1993). 状況に埋
57 め込まれた学習 産業図書)

58 Norrick, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Story-*
59 *telling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins
60 Publishing Company.

61 Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail
62 (1974). A simplest systematic for the organization of
63 turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4), 696–
64 735.

65 柴田武 (1978). 社会言語学の課題 三省堂

66 渋谷勝己 (2000). 徳川学の流れ—方言学から社会言語学
67 へ— 社会言語科学, 2 (2), 2–10.

68 Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interper-*
69 *sonal communication competence*. Beverly Hills, CA:
70 Sage.

71 竹内郁郎 (1982). 受容過程の研究 竹内郁郎・児島和人
72 (編) 現代マスコミュニケーション論, pp. 44–79 有
73 斐閣

74 山田寛 (2007). 顔面表情認知における情報処理過程 社会
75 言語科学会第 19 回大会発表論文集, 346–349.

76 安田三郎・海野道郎 (1977). 社会統計学 改訂 2 版 丸善

77 Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences
78 need no inferences. *American Psychologist*, 35, 151–
79 175.

81 (201X 年 X 月 X 日受付)

82 (201X 年 X 月 X 日修正版受付)

83 (201X 年 X 月 X 日掲載決定)